



産直ニュース（農・畜・水産）38週号



生活クラブの産直材は、より美味しくより安心して頂ける様に生産者を指定しています。このため、天候・生育状況等によってはお届け週が予定変更になる場合や、緊急にお知らせが必要な場合もありますので、本ニュースで産地の状況をお知らせします。 生活クラブ関西

*納品書「次週以降のお届け」が上手く機能していません。果物類お届けは下表をご参考にして下さい。

今後のお届け品スケジュール

単協 支所	大阪				京都				奈良	滋賀
	茨木	豊能	香里	門真	平野	西	東	奈良	滋賀	
38週	二十世紀梨②				シナドルチェ(門真+滋賀)					
	巨峰③	巨峰②	巨峰②	巨峰③	巨峰③	つがる②	つがる②	つがる②	つがる②	
39週	吉野二十世紀									
	紅玉	紅玉	ドルチェ	秋映	ドルチェ	ドルチェ	ドルチェ	千秋(!)		
40週	ナイアガラ(!)		新高梨①(!)		たねなし柿:刀根柿①(!)					
	ドルチェ	ドルチェ	秋映	紅玉	紅玉	紅玉	秋映	紅玉(!)	紅玉	
41週	新高梨②(!)		新興梨①(!)		たねなし柿:刀根柿②(!)					
	秋映	秋映	紅玉		秋映	秋映	紅玉	秋映	秋映	

*(!)は調整の可能性有ります。

お知らせ 産地情報

■じゃがいもデジマ 1kg 規格価格変更となります

38週カタログN0-132のじゃがいもデジマ1kgは在庫量不足の為、700gに規格変更してお届けします。価格は税込212円に修正済みです。ご迷惑をお掛けしますがご確認宜しくお願いします。

■バラゴンバナナ マキララ地震被害からの復興状況

2019年10月にマグニチュード6を越える3度の地震が、バラゴンバナナの産地「マキララ」を襲いました。マキララのバラゴンバナナ出荷団体「ドンボスコ財団」では、自ら被災しながらも周辺住民への救援活動に取り組んできました。今回は復興への取り組みとメッセージの一部をご紹介します。

◇食料安全保障のためのサバイバル菜園（ドンボスコ財団）

私たち（ドンボスコ財団）の考える復興というのは、単に基本的な住まいを整備するという事だけではありません。食料安全保障を考慮し、すべての世帯に対し、移住先として提供された土地に野菜や芋類を栽培するスペースを確保するように伝えました。そこに植えるための種のセットや、薬物や芋類の苗を配布し、さらに有機農業や適正技術に関する研修なども実施しました。

当初はこれらをここに住むための前提条件としていたのですが、今では住民自身が有機農業の考え方を気に入り、自ら野菜栽培に勤しんでいます。自家消費以上のものができた人は、毎週水曜の市に出したり、近所の人と作物の交換をしたりしています。

ドンボスコ財団の働きかけで、根菜や野菜を各家庭で栽培する「サバイバル菜園」の推進も村の政策に組み込まれました。村の676世帯はグループに編成され、各家庭での農園とは別に、空いている区画や、地主から借りた土地で共有の「サバイバル菜園」で食料を生産しています。現在、バタサン村の人口のほぼ100%が野菜畑などを持っています。

◇サスティナブル（民衆交易とバラゴンバナナの持続可能性）

民衆交易を通じた多くの団体からの支援は、単なるモノの交易を越え、地理的社会的及び文化的な隔たりも越える事を示しました。生産現場であるコミュニティーでは感謝の気持ちが溢れています。

又、コロナ禍で他の作物（コブラ、ゴム、切り花など）の取引が停止しているにもかかわらず、バラゴンの出荷は続き、多くの人々が、その持続可能性と強さを認識しました。一般的な商品取引とは違う民衆交易の安定性が浮き彫りになりました。

被災者の中からも有機農業やバラゴンバナナ栽培への関心が急激に高まっています。皆様に支えられて生産されたバナナが出荷される時、再びアジアのパートナーとの循環の輪がつながるでしょう。Thank you



家庭菜園とサバイバル菜園ができて喜ぶ女性達